府立長吉高等学校
校長　上本　雅也

令和３年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

わかる授業で自信を持ち一人ひとりの個性を大切にして、生徒が本来持っている可能性を引き出すことで夢を実現する学校づくりをめざす。

１　生徒のやる気に応え、夢を実現するために基礎学力の定着と社会の基本的なルールやマナーを身につける。
２　様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、すべての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
３　様々な人との出会いを通じてコミュニケーション力を高め、「地域を支える人材」として人々のために進んで社会貢献できる生徒を育成する。

２　中期的目標

生徒がそれぞれの夢を実現するために、教職員は生徒自らが成長するために努力することを全力で支援する。
【生徒に育みたい力】　①　自己と他者を大切にできる力　　②　豊かな人生を送るための人とつながる力　　③　社会の変化に適応できる考える力

１　基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり
（１）「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善に取り組む。
ア　授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。
イ　生徒が「考える力」を身に付けることができるように授業内容を工夫する。（エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。）
全ての教科で「授業を受けて何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の「学習力」向上を意識した授業を実施し評価につなげる。
ウ　ICT 機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・構造化・協働化）を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。
全ての普通教室でインターネットがつながる環境を早期に整備する。
※　生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を、令和５年度には 75%にする（H30･R１･R２：66%･61%･71%）

２　安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信
（１）生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。
ア　様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「面倒見の良い学校」づくりをめざす。SC、SSW と連携し生徒情報共有会議を密接に行う。
イ　保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
ウ　生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動の活性化を図る。
※　生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和５年度には 65%にする（H30･R１･R２：60%･60%･64%）
（２）進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。
ア　外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
日々の学習が進路実現につながることを意識し、１年生から３年後を考えた進路保障に取り組む。
イ　参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
ウ　問題行動の未然防止に取組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
個々の生徒の状況に応じた寄り添った支援、生徒・保護者が納得できる指導と支援を実施する。
※　就職内定率の向上をめざし、毎年度 95%以上を維持する。(H30･R１･R２：100%･100%･96%)
（３）人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。
ア　教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことでいじめや差別の未然防止に努める。
イ　多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
※　生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を令和５年度には 80%にする（H30･R１･R２：73%･71%･75%）
（４）　中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。
ア　授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報する。
イ　「面倒見の良い学校」を中学校、中学生・保護者にアピールするとともに、生徒委員会活動を活性化させて、「面倒見の良い学校」から「生徒自らが主体的に活動する学校」へのステップアップをめざす。
ウ　地域と積極的に関わることでボランティア活動を活性化し、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

３　ICT 等を活用した校務の効率化と学校力の向上
（１）校務処理システムや ICT の活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
（２）ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。
（３）新型コロナウイルス感染症に関わり登校できない生徒の「学びの保障」の観点から ICT 環境を早期に整備する。
（４）新型コロナウイルス感染症対応で教職員の負担が増大させないために積極的に外部人材を活用し業務の効率化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立長吉高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R２年度値]	自己評価
１　基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	（１）「わかる授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善。 ア　「わかる授業」づくりのための授業改善 イ　「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善 ウ　ICT 機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化	（１） ア　生徒の学習状況（実態）に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。 イ　新学習指導要領を見据え「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む ウ　研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践。（生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。等）	（１）考査期間等を活用し少数での意見交流型研修を３回以上実施する。 ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を１回以上実施する。 ・公開授業週間を年間２回以上実施する。 ・学校教育自己診断結果における生徒の授業満足度 70%以上の維持［71%］ イ・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を２回以上実施する。 ウ・学校教育自己診断（教員）の「ICT 機器の活用」項目の肯定的回答 78%［77%］	
２　安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	（１）セーフティネットの拡充 ア　「面倒見の良い学校」づくり イ　図書室の活性化 ウ　学校行事の改善 部活動の活性化 （２）キャリア教育の確立 ア　外部人材を活用しながらキャリア教育の推進 イ　生徒のコミュニケーション能力等の向上 ウ　社会人としての態度・マナーの育成 （３）人権教育の推進 イ　多文化共生の学校 （４）中学校等への広報強化 ア　授業公開	（１） ア　個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・１学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 イ　図書室を充実させ居場所を作る。 ウ　生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。 ・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。 （２） ア・３年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材（CC、SSW、SC）の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。 イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。 ウ・社会人として必要なマナーとして、遅刻や服装・頭髪等について指導する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。 （３） イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。 ※（１）（２）（３）を通じて生徒の学校満足度を高める （４） ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。 ・HP を通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。	（１） ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にていねいに応じてくれる」（生徒用）の肯定的回答 65%［64%］。 ・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」（保護者用）の肯定的回答 67%［66%］ ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」（生徒用）の肯定的回答 69%［67%］ ・年度末における１年生の部活動加入率 50%をめざす。［40%］ （２） ア・就職内定率 95%以上の維持［90%］ イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」（生徒用）の肯定的回答 63%［62%］ ウ・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」（生徒用）の肯定的回答 80%以上の維持［83%］ （３） イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を１回以上企画する。 ※「エンパワメントスクールに来て良かった」（生徒用）の肯定的回答 68%［67%］ （４） ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を２回以上実施する。 ・学校行事や授業の様子を HP で紹介する。（年間３回以上更新する。）	
３　ICTを活用した校務の効率化	（１）ICT 等の活用による校務の効率化 （２）ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成 （３）ICT 環境の早期整備	（１）校務処理システムや ICT 等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。 （２）ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。 （３）家庭学習を視野に入れた ICT 環境を整備する	（１）一部の教職員に集中する校務を削減し、時間外勤務月 80 時間以上の職員を半減する。［６名］ （２）教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に１回以上実施する。	